

# 北陸圏広域地方計画 計画検討の流れ

平成19年11月2日  
第1回北陸圏広域地方計画懇談会

# 目次

1. 国土形成計画について	1
2. 全国計画と広域地方計画について	2
3. 広域地方計画区域について	3
4. 国土形成計画の策定スケジュール(予定)	4
5. 北陸圏広域地方計画の策定体制について	5
6. 北陸圏広域地方計画の策定に向けた取り組み	6
7. 北陸圏広域地方計画の検討の流れ	7
8. 北陸圏の現状	9
9. 北陸圏を取り巻く時代の潮流(機会)	11
10. 関連計画等からみた地域づくりの方向性	13
11. 方向性、圏域の課題に基づく将来像等の設定	14
12. 将来像等の構成	16

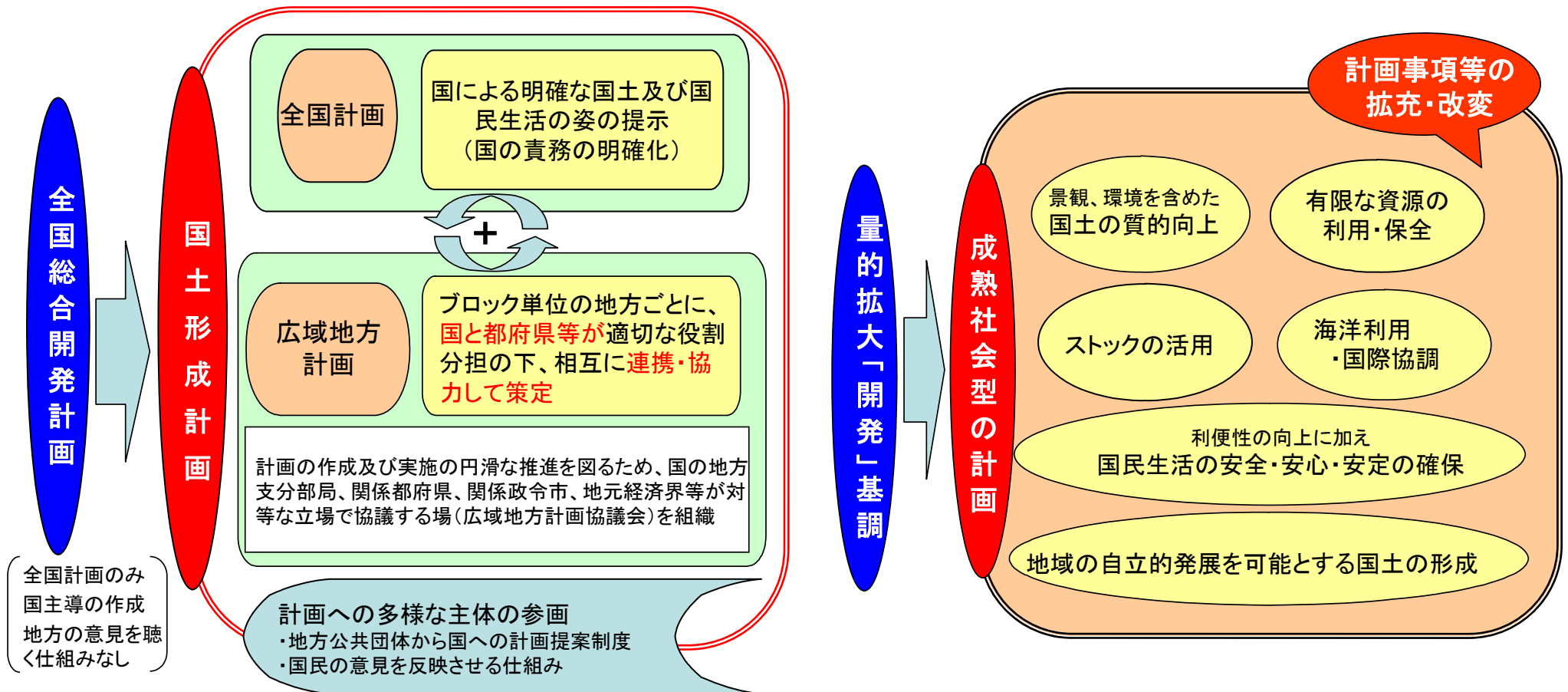
# 1. 国土形成計画について

総合的な国土の形成を図るための国土総合開発法等の一部を改正する等の法律(国土形成計画法)

※平成17年7月29日公布、12月22日施行

国と地方の協働によるビジョンづくり

開発中心からの転換



※この他、国土利用計画との一体作成、大都市圏整備に関する計画の合理化、地方開発促進計画の廃止など、国土計画体系の簡素化・一体化を図り、国民に分かりやすい国土計画に再構築する。

## 2. 全国計画と広域地方計画について

### 全国計画

総合的な国土の形成に関する施策の指針  
(府省横断的な計画)

#### 【計画の内容】

- ・国土の形成に関する基本的な方針
- ・国土の形成に関する目標
- ・全国的な見地から必要とされる基本的な施策  
(個別事業名は原則として記述しない)

#### 国土交通大臣が案を作成

国土審議会の  
調査審議

都道府県・政令市  
からの意見聴取

パブリックコメント

閣議決定

都道府県・政令市から計画作成・変更提案

基本とする

### 広域地方計画

2以上の都府県の区域で政令で定める区域

広域地方計画区域における国土形成の計画

#### 【計画の内容】

- ・当該区域の国土の形成に関する方針
- ・当該区域の国土の形成に関する目標
- ・広域の見地から必要とされる主要な施策  
(個別事業名を含む)

国の地方  
支分部局

関係都府県

広域地方計画協議会

対等な立場で協議

関係政令市

地元経済界等

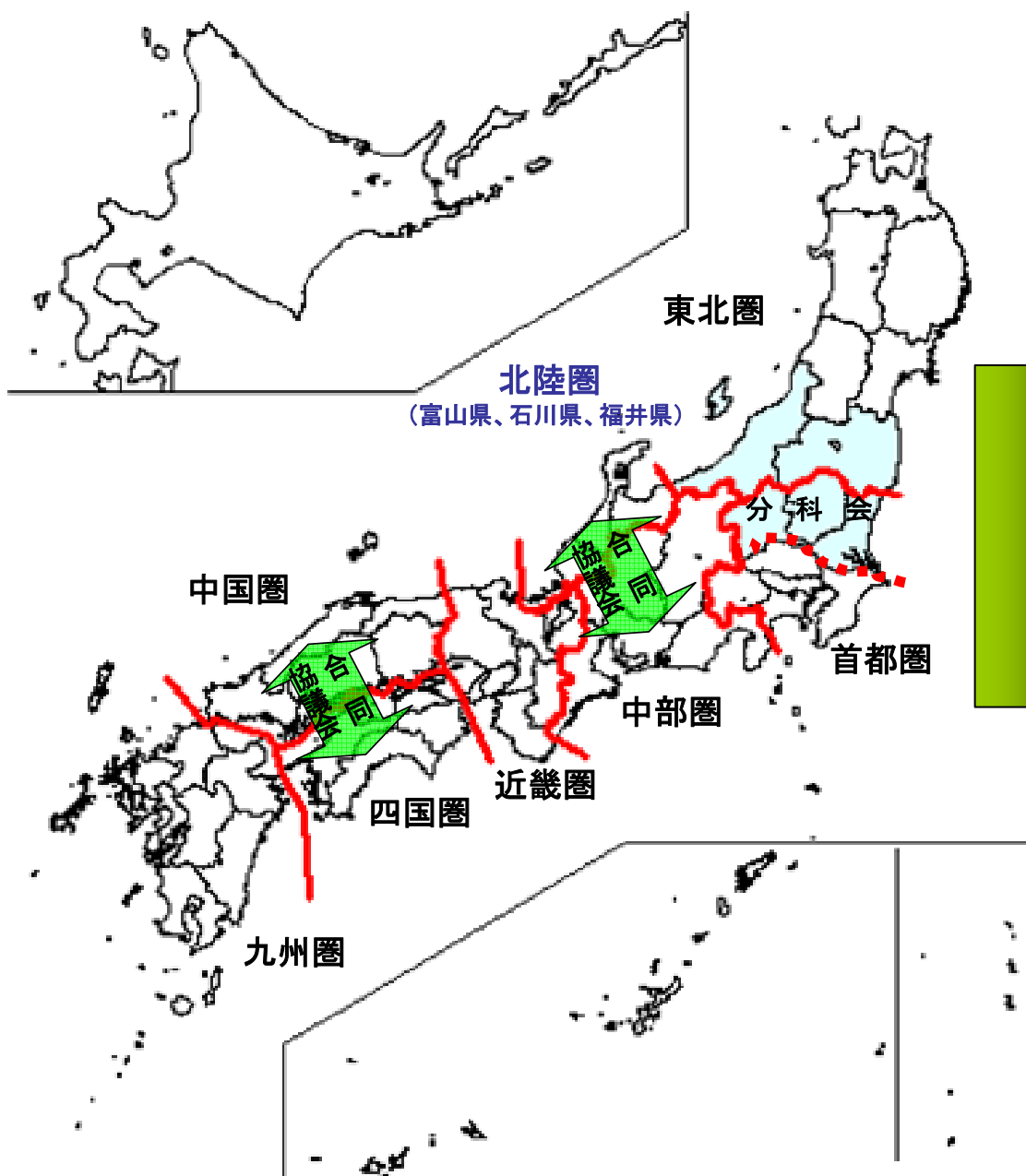
学識経験者  
からの意見聴取

パブリック  
コメント

国土交通大臣が決定

市町村から計画作成・変更提案(都府県経由)

### 3. 広域地方計画区域について



#### 広域地方計画区域の考え方

自然、経済、社会、文化等において密接な関係が相当程度認められる区域

二以上の都府県の区域  
(都府県の区域は分割しない)

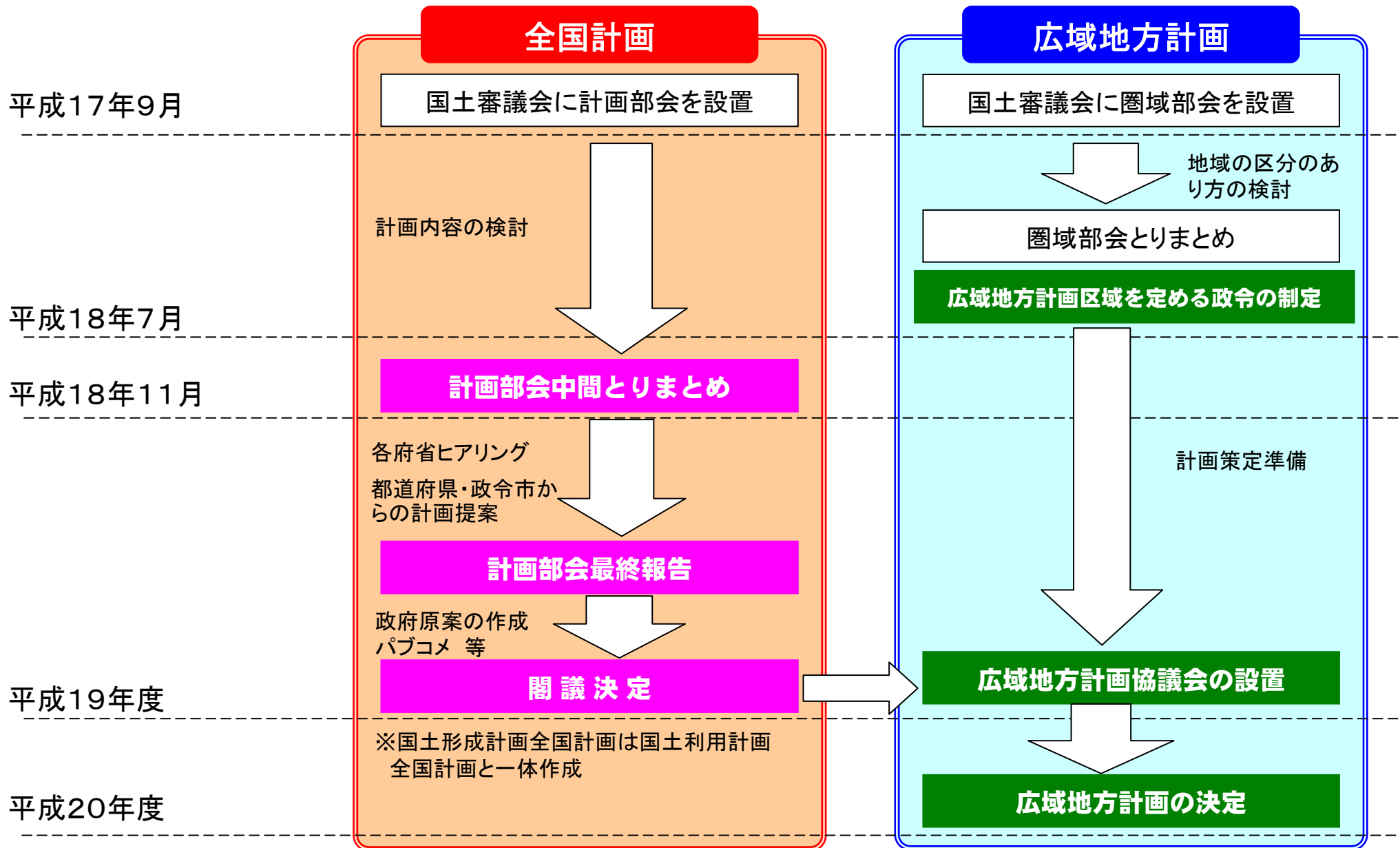
一体として総合的な国土の形成を推進する必要がある区域

北海道及び沖縄県を除く45都府県を重複なく、隙間なく、多くとも10程度の区域に大括りに区分

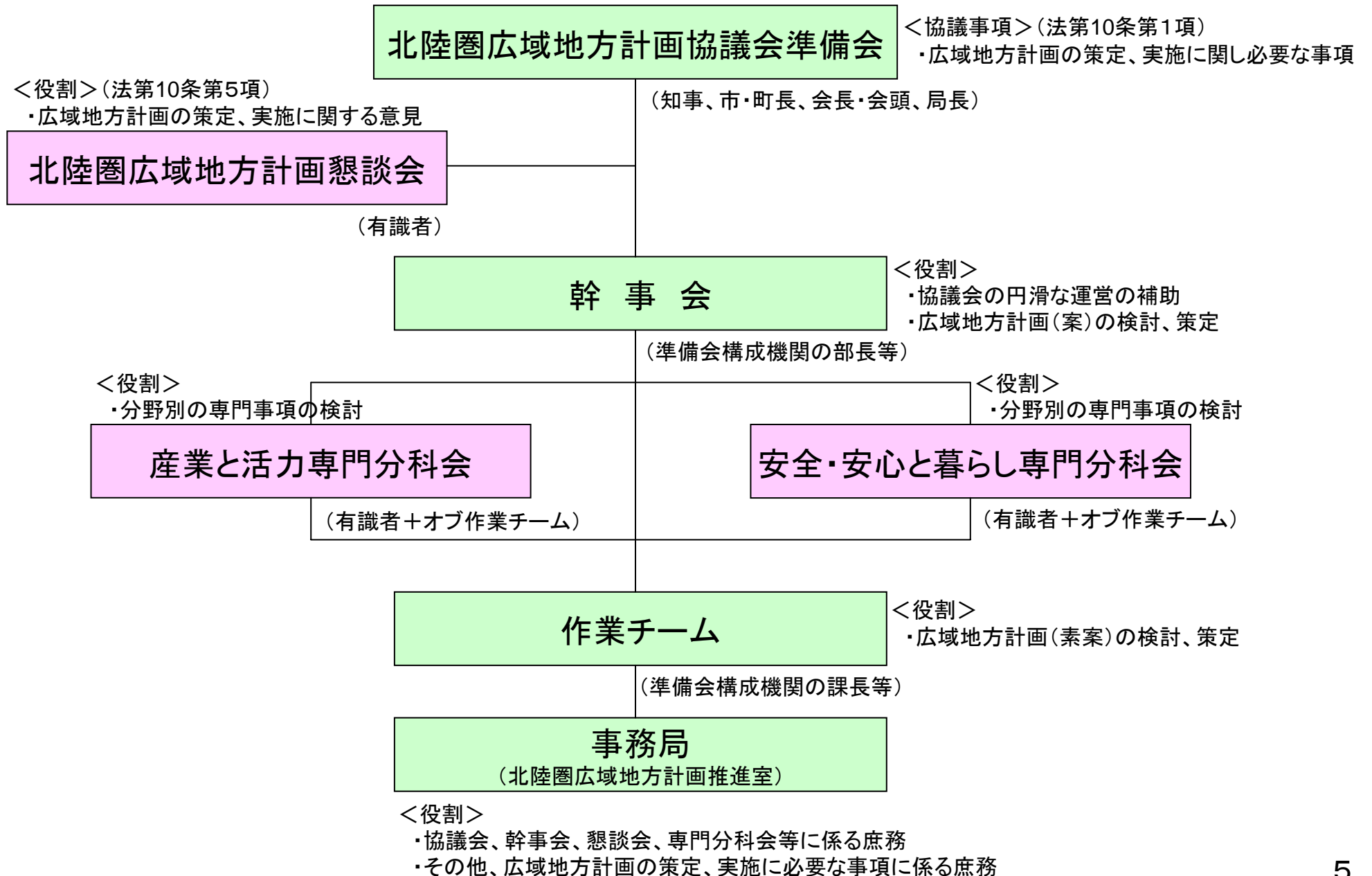
北陸圏及び中部圏並びに中国圏及び四国圏においては、

- ①各々の広域地方計画協議会の関係構成員からなる合同協議会を設置し、日本海から太平洋にわたる発展の全体構想とともに、区域に跨る共通課題に関して協議を行い、
- ②この協議に基づき、当該全体構想や共通課題につき各々の広域地方計画の内容として共通に記述し、それぞれの取組を進める

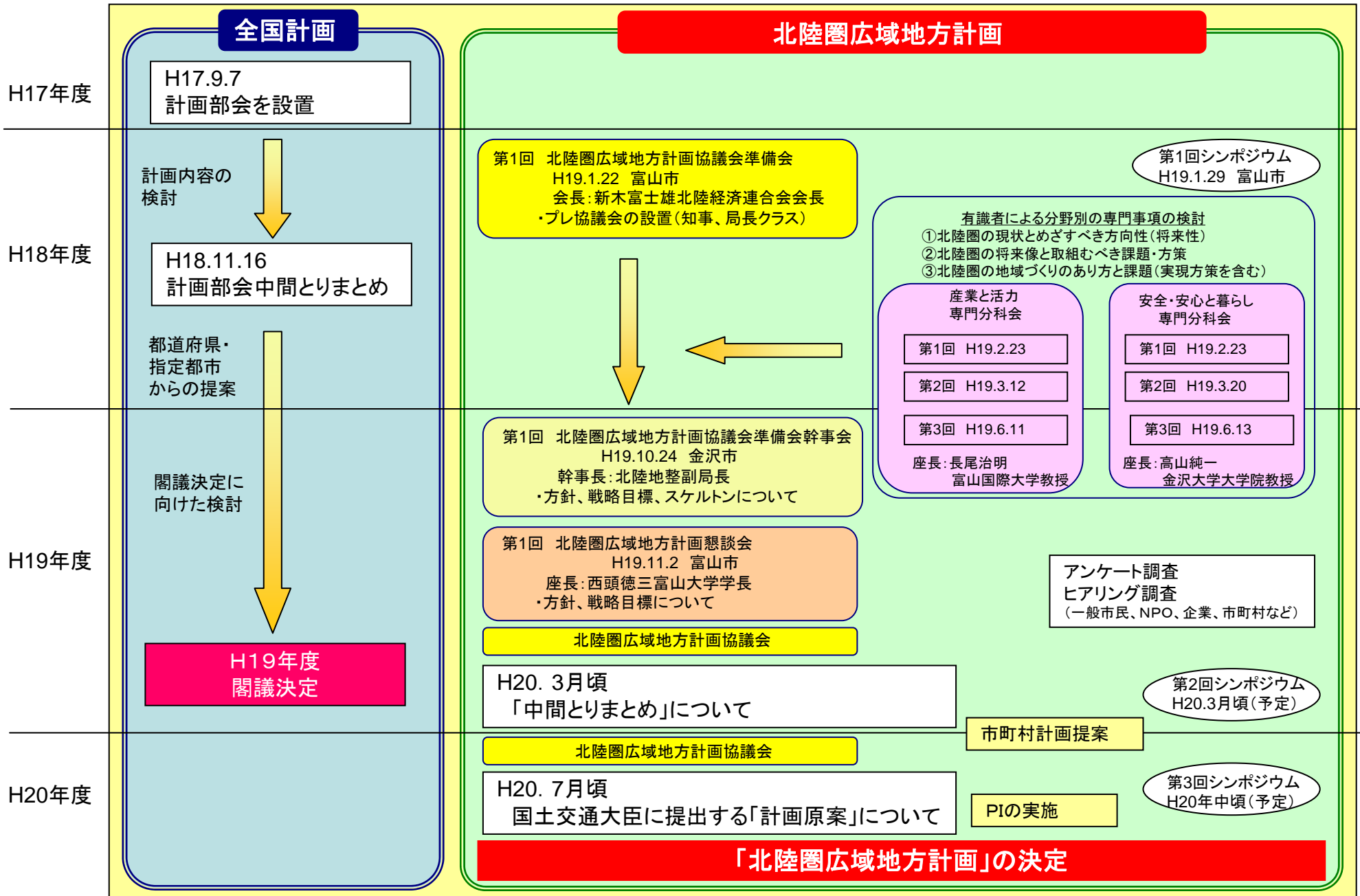
# 4. 国土形成計画の策定スケジュール(予定)



# 5. 北陸圏広域地方計画の策定体制について

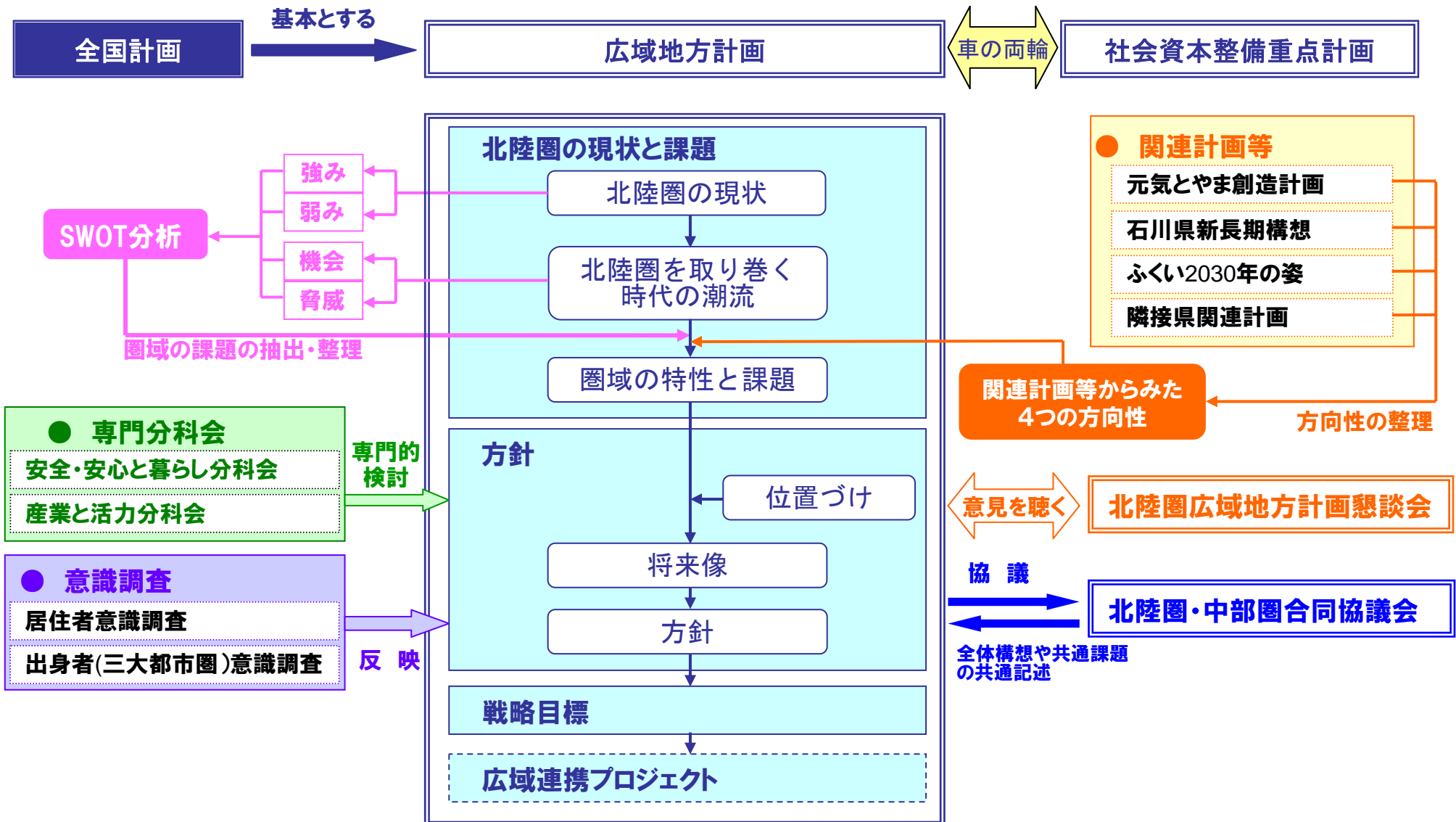


# 6. 北陸圏広域地方計画の策定に向けた取り組み





# 7. 北陸圏広域地方計画の検討の流れ



## 【参考】SWOT分析とは

- 企業戦略立案等において使用される経営分析のフレームワークのひとつ。
- 自社の内部環境要因を「強み」(Strengths)と「弱み」(Weaknesses)に区分し、外部環境要因を「機会」(Opportunities) と「脅威」(Threats)に区分する。これらのマトリックスから、外部環境の機会と脅威に対して自社の強みを生かし、弱みを克服するにはどうすれば良いかを分析する手法。NPM※が地域戦略の策定や地域運営に導入される中で、企業経営戦略の分析で採用されるSWOT分析手法も昨今、用いられることが多くなっている。

※NPM; New Public Managementの略、民間の経営手法を公的部門に応用した公的部門の新たなマネジメント手法

- この4つの環境要因の頭文字をとってSWOT分析と言う。
- 北陸圏広域地方計画の検討では、北陸圏の現状を内部環境要因として捉え、北陸圏を取り巻く時代潮流の流れを外部環境要因として捉えたSWOT分析を実施し、北陸圏の課題を抽出・整理。

		外部環境	
		機会	脅威
内部環境	強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 積極的攻勢 機会を生かして、強みを強化し伸ばす戦略</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 差別化戦略 脅威に対して、強みを用いて優位性をアピールする戦略</li> </ul>
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 段階的施策 機会を生かして弱みを克服する戦略</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 専守防衛・撤退 脅威に対して弱みを補強する戦略</li> </ul>

## 8. 北陸圏の現状(強み)

### ○良質な生活環境 (参考図表 1頁~2頁参照)

- ・住環境に関する多くの指標が高い水準 (持ち家比率、持ち家住宅延べ面積、下水道普及率、ブロードバンド及びCATVの普及率、一人当たりの都市公園面積、一人当たりの犯罪発生件数等)
- ・全国で最も割合の高い女性の就業率、共働き世帯の割合
- ・男女とも長寿 (平均寿命が男女とも全国2番目となっている福井県等)

### ○多様で豊富な地域資源等 (参考図表 3頁~4頁参照)

- ・3,000m級の山々から日本海に至る多様で豊かな自然環境や豊富で良質な水資源
- ・豊富で多様な水産資源など食材の宝庫
- ・農林水産物を生かした食品加工や漆器などの什器なども含めた独自性のある食文化
- ・魅力ある歴史・文化や風景(多数の国宝・重要文化財や史跡・名勝・天然記念物,伝統的な行事や祭り,散居村や棚田等)
- ・宗教家や芸術家などを多数輩出
- ・宇奈月温泉や加賀温泉郷など、全国有数の温泉地が存在
- ・自然や歴史,伝統文化などの魅力を生かしたグリーンツーリズムなど体験・滞在型の交流を創出するニューツーリズムの萌芽
- ・個性的な伝統産業からニッチトップ企業の集積する先端産業まで日本海側有数の産業が集積 (富山県の製売薬、アルミ製品や銅製品、海洋深層水、石川県の漆器や金箔、情報通信や建機、福井県の繊維や眼鏡フレーム、金属メッキ等)
- ・高い増加率にある工場立地件数や民間設備投資
- ・エネルギー供給基地としての役割 (全国の発電電力量の12.1%を占める。)

### ○三大都市圏や環日本海諸国に対する地理的優位性 (参考図表 5頁参照)

- ・三大都市圏から、それぞれ概ね3時間圏に位置
- ・北陸新幹線や中部縦貫自動車道、東海北陸自動車道、能越自動車道などの整備の進展により、今後より一層期待される三大都市圏からのアクセス条件の向上
- ・日本海を挟んで対面する環日本海諸国などへの良好なアクセス条件
- ・環日本海諸国の経済成長も背景にした、韓国・中国や、東南アジア諸国への航路の充実

## 8. 北陸圏の現状(弱み)

### ○ 厳しい自然環境 (参考図表 6頁参照)

- ・自然災害の脅威を再認識させた能登半島地震など地震・津波の脅威
- ・脆弱な地形・地質に起因する土砂災害や急流河川の氾濫
- ・平成16年の福井豪雨や昨今頻繁に來襲する台風などによる風水害の被災
- ・除雪の負担の重い積雪
- ・冬場の厳しい波浪などによる砂浜の減少など

### ○ 進展する過疎化や中心市街地の空洞化 (参考図表 7頁～8頁参照)

- ・全国より早く進行する人口減少や高齢化
- ・多い過去の消滅集落数や、全国平均に比べて高い今後10年以内に消滅の可能性がある集落の比率
- ・著しい農林水産業従事者の減少や高齢化の進行に伴い、国土資源(森林や農地など)の適切な保全管理に対する危惧の発生
- ・郊外型店舗の立地の進展や低下する人口集中地区(DID)人口密度等にみられる中心市街地の活力の低下
- ・バスや鉄道などの公共交通利用の低下

### ○ 相対的に低い交流・連携 (参考図表 9頁参照)

- ・全国平均に比べ低い、国際線での自圏域内利用
- ・相対的に低い国際交流・連携の指標 (留学生数、国際会議開催件数)
- ・台湾や韓国をはじめとする外国人観光客数の増加の反面、相対的に少ない観光入込客数※と平成14年をピークに若干減少傾向にある観光入込客の総数 (※調査方法が各県で異なるため、参考扱い)
- ・増加傾向にあるものの、他圏域に比べると依然少ない産学官の共同研究

### ○ 実力よりも低い評価をもたれている地域イメージ (参考図表 10頁参照)

- ・優れた強み(良質な生活環境、多様で豊富な地域資源等、地理的優位性)の反面、必ずしも高くない都道府県のブランド力

## 9. 北陸圏を取り巻く時代の潮流（機会）

### ○ グローバル化と環日本海諸国の発展（参考図表 11頁参照）

- ・2004年に中国・香港との貿易総額が米国との貿易総額を超えるなど、全国的に増加する中国・香港との貿易総額
- ・北陸圏においても増加する輸出入額や国際コンテナ取扱貨物量
- ・環日本海諸国の経済発展、富裕層の増加などにより増加する韓国・台湾・中国等からのわが国への観光客
- ・立山黒部アルペンルートや兼六園など北陸圏でも見られる、外国人観光客数の増加

### ○ いやしの重視（参考図表 12頁参照）

- ・自然とのふれあいに対するニーズの高まり
- ・将来的に、都会と自然の多い地域との二地域居住を希望する割合が約4割
- ・北陸3県でそれぞれ行われている、団塊の世代を中心とした都市と農山漁村の交流のための取り組み

### ○ 「新たな公」の役割の拡大（参考図表 13頁参照）

- ・行政と住民や企業、NPO、住民団体等の協働による様々な活動（市民団体等による環境保全や阪神・淡路大震災などの防災対策支援など）の進展と地域づくりにおける「新たな公」の役割の拡大
- ・全国平均と比べて高い北陸圏のボランティア参加の行動者率（15歳以上で1年間でボランティア活動※を行った人の割合）  
※ ボランティア活動：報酬を目的とせず、自分の労力、技術、時間を提供して地域や個人・団体の福祉に貢献する活動
- ・北陸圏における道路や河川の清掃等美化活動や除雪などで進む、住民団体と行政との協働

### ○ 情報通信基盤の急速な普及・発展（参考図表 14頁参照）

- ・年々増加し、普及率が約7割に達するインターネット利用人口
- ・福井県と富山県では、全国平均以上に進んでいるブロードバンド及びCATV普及率

### ○ 防災への取組（参考図表 15頁参照）

- ・災害情報の予知、情報提供技術・ハザードマップの整備など防災に係わる技術が向上
- ・北陸圏でも進められる防災情報の整備（ハザードマップの整備や防災行政無線整備）
- ・反面、全国平均より低い自主防災組織のカバー率

## 9. 北陸圏を取り巻く時代の潮流(脅威)

### ○ 人口減少・高齢社会の到来 (参考図表 16頁参照)

- ・全国的に進展が予想される人口減少・高齢化の中で、全国より早く始まる人口減少
- ・少子・高齢化により減少が予想される生産年齢人口
- ・既に高齢化や後継者難が見られる農林業・漁業での今後の労働力の確保が深刻な問題
- ・北陸圏の中山間地では、人口減少・高齢化が全国以上の早さで進んでいることから、労働力の確保が深刻な問題

### ○ 経済や人的交流に関する国内他地域との競争の激化 (参考図表 17頁参照)

- ・平成の大合併や地方分権一括法施行に伴う地方への権限の移譲
- ・地方自治体における厳しい財政状況と各所で見られる自治体のランク付け
- ・北陸3県は、暮らしやすさや豊かさ自治体ランキングでは、常に上位

### ○ 災害・環境等リスクの増大 (参考図表 18頁～19頁参照)

- ・太平洋側における東海・東南海・南海地震などの発生とこれらの地震による太平洋側での大規模な被害の危惧
- ・全国より遅れた住宅の耐震化等から、北陸3県での耐震対策等の必要性の高まり
- ・世界的にも増加する温室効果ガスにより、国内の年平均気温や海域平均海面水温の上昇傾向と全国的な降雪量の減少やこれに伴う生態系への影響
- ・温室効果ガス削減に向けて必要性が高まる新・省エネルギー導入などの対策
- ・対峙する環日本海諸国の経済発展に伴う、黄砂の飛来、酸性雨による森林の減少や硫酸化物沈着量の増加などの環境問題の深刻化
- ・地理的に環日本海諸国と近い北陸圏では、黄砂等の環境問題やこれらの国からの漂流ごみなどが大きな問題

# 10. 関連計画等からみた地域づくりの方向性

・ SWOT分析手法による北陸独自の課題解決の方向性の明確化に向け、関連計画等からみた方向性を整理

地域づくりの方向性	各県計画等	国関連計画（参考）
<b>安全・安心</b>	安全・安心な生活	安全・安心の確保
<b>暮らし・環境</b>	文化活動・豊かな生活	
<b>産業・活力</b>	活力ある産業	活力ある圏域
<b>国内外との交流・連携</b>	3大都市圏等との交流	環日本海・日本海国土軸の拠点



・ 地域の発展を図るためには、**①安全・安心で豊かな****②暮らし・環境を充実し、③産業・活力を強化するとともに、④国内外との交流・連携を強化していくことが必要である。**

## 関連計画等からみた4つの方向性

### 圏域内の連携・充実

方向性①: **安全・安心**

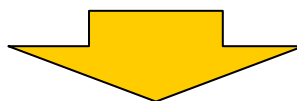
方向性②: **(豊かな)暮らし・環境**

方向性③: **(活発な)産業・活力**

### 交流・連携への展開

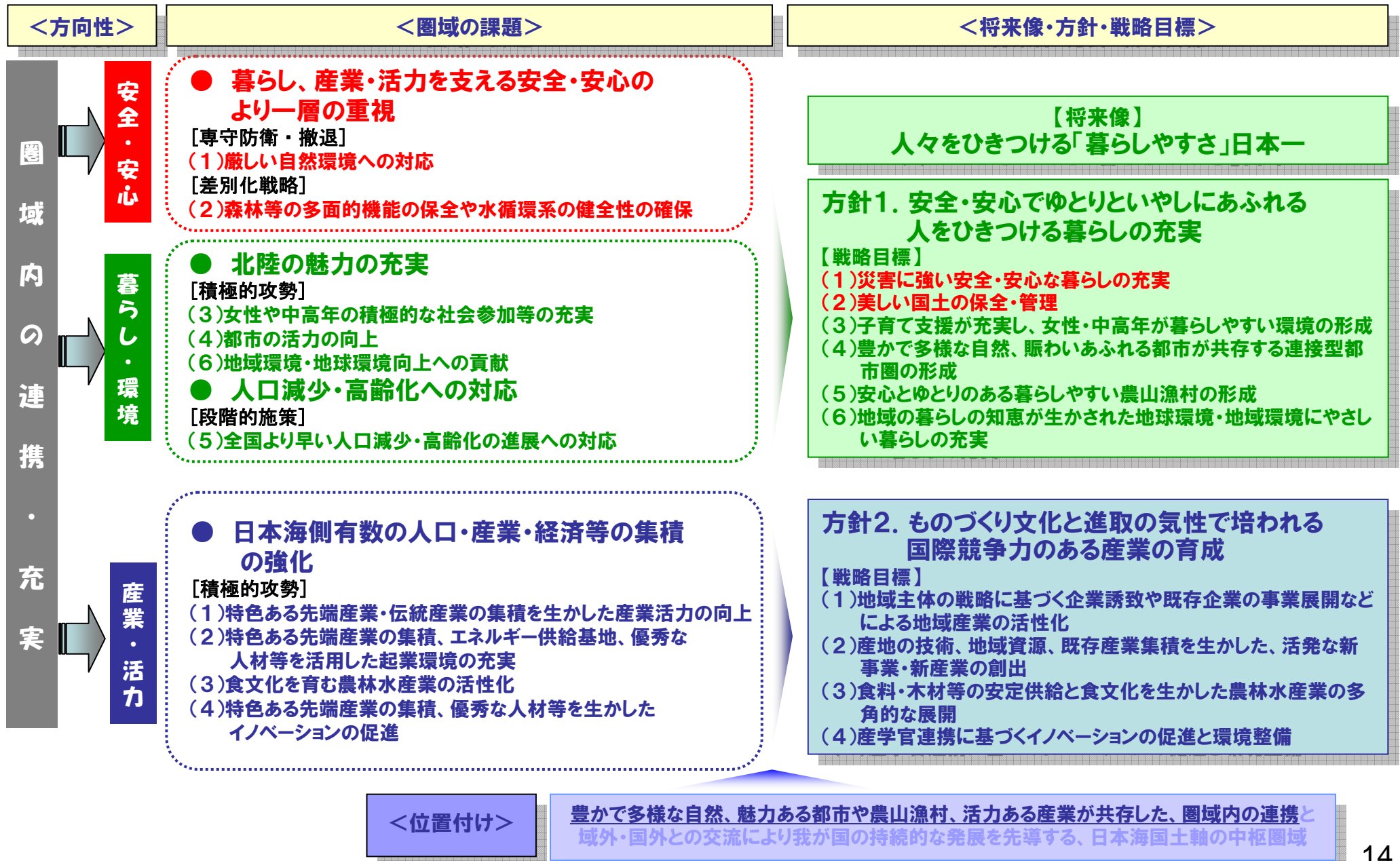
方向性④: **国内外との交流・連携**

圏域の豊かな生活の充実を通して得られた生活環境資源や知恵を活用し、国内外との交流・連携の展開へ



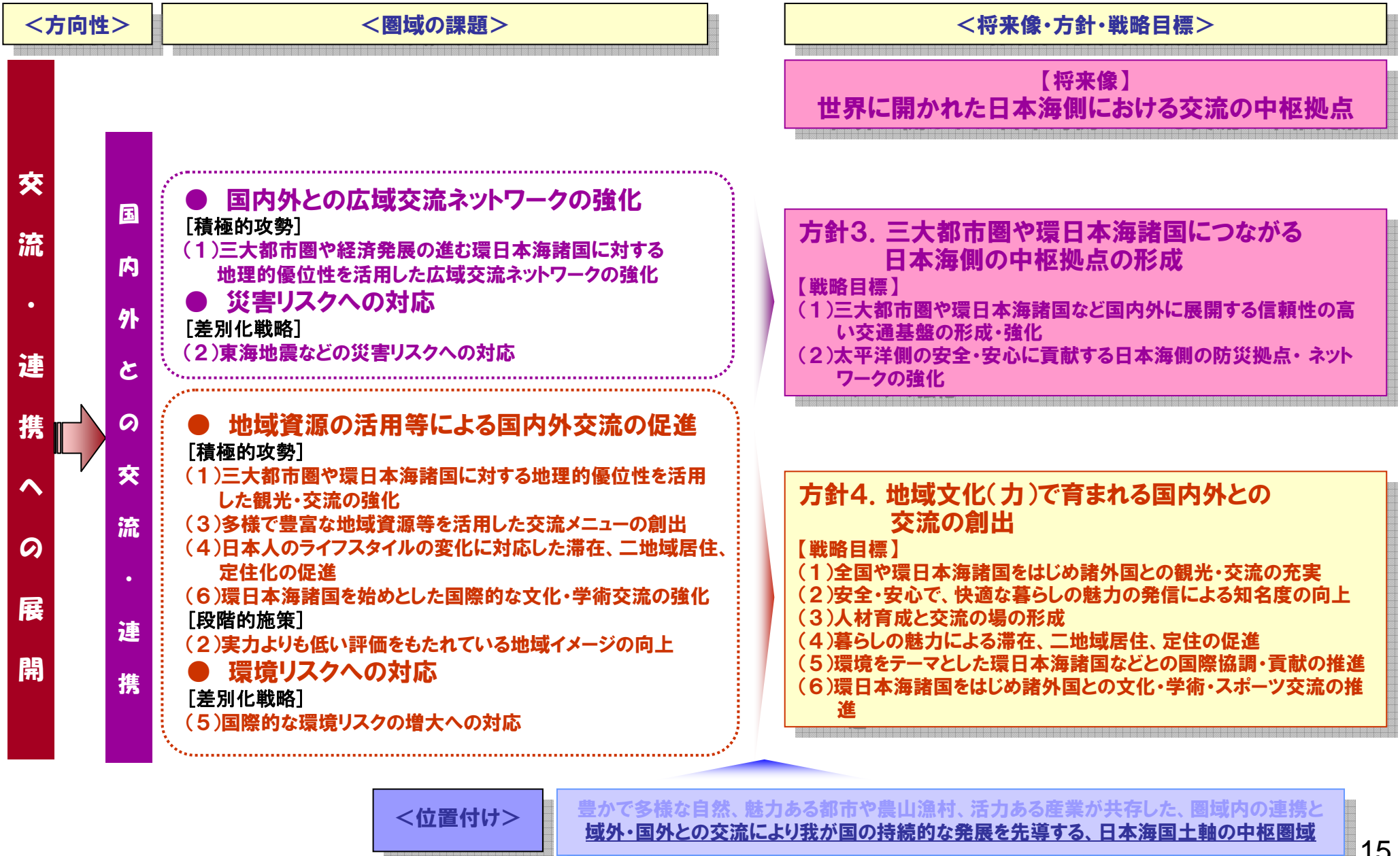
**SWOT分析による圏域の課題の抽出・整理**

# 11. 方向性、圏域の課題に基づく将来像等の設定①





# 11. 方向性、圏域の課題に基づく将来像等の設定②



## 12. 将来像等の構成①

### 位置づけ

豊かで多様な自然、魅力ある都市や農山漁村、活力ある産業が共存した、  
圏域内の連携と域外・国外との交流により  
我が国の持続的な発展を先導する、日本海国土軸の中核圏域

### 将来像

#### 一 人々をひきつける「暮らしやすさ」日本一

豊かさに変化に富んだ特色を持つ自然、子育てしやすい優れた住環境などの魅力ある都市や農山漁村、ものづくり文化に支えられた活力ある産業が重層的に共存するコンパクトな地域を形成し、安全・安心で、人々の世代・価値観に応じた多彩な生活、就業、交流などの機会を享受することのできる誰もが豊かさを実感できる日本一暮らしやすい圏域を目指す。

#### 二 世界に開かれた日本海側における交流の中核拠点

自然や歴史、精神文化、ものづくり文化など「雪国の風土」が培ってきた知恵・経験・技術、資源、三大都市圏や環日本海諸国に対する地理的優位性、日本海側有数の人口や先端産業の集積を生かして、国内外の活発な物流や、地域の文化(力)により交流を創出し、世界に開かれた日本海側の交流の中核となる拠点圏域を目指す。

### 方針

- 1 安全・安心でゆとりといやしにあふれる人をひきつける暮らしの充実
- 2 ものづくり文化と進取の気性で培われる国際競争力のある産業の育成
- 3 三大都市圏や環日本海諸国につながる日本海側の中核拠点の形成
- 4 地域文化(力)で育まれる国内外との交流の創出

## 12. 将来像等の構成②

### 戦略目標

#### 1 安全・安心でゆとりといやしにあふれる人をひきつける暮らしの充実

- (1) 災害に強い安全・安心な暮らしの充実
- (2) 美しい国土の保全・管理
- (3) 子育て支援が充実し、女性・中高年が暮らしやすい環境の形成
- (4) 豊かで多様な自然、賑わいあふれる都市が共存する接続型都市圏の形成
- (5) 安心とゆとりのある農山漁村の暮らしの充実
- (6) 地域の暮らしの知恵が生かされた地球環境・地域環境にやさしい暮らしの充実

#### 2 ものづくり文化と進取の気性で培われる国際競争力のある産業の育成

- (1) 地域主体の戦略に基づく企業誘致や既存企業の事業展開などによる地域産業の活性化
- (2) 産地の技術、地域資源、既存産業集積を生かした、活発な新事業・新産業の創出
- (3) 食料・木材等の安定供給と食文化を生かした農林水産業の多角的な展開
- (4) 産学官連携に基づくイノベーション促進環境の形成

#### 3 三大都市圏や環日本海諸国につながる日本海側の中枢拠点の形成

- (1) 三大都市圏や環日本海諸国など国内外に展開する信頼性の高い交通基盤の形成・強化
- (2) 太平洋側の安全・安心に貢献する日本海側の防災拠点・ネットワークの強化

#### 4 地域文化（力）で育まれる国内外との交流の創出

- (1) 全国や環日本海諸国をはじめ諸外国との観光・交流の充実
- (2) 安全・安心で、快適な暮らしの魅力の発信による知名度の向上
- (3) 人材育成と交流の場の形成
- (4) 暮らしの魅力による滞在、二地域居住、定住の促進
- (5) 環境をテーマとした環日本海諸国などとの国際協調・貢献の推進
- (6) 環日本海諸国をはじめ諸外国との文化・学術・スポーツ交流の推進